

慰霊の日



理事 天願 俊穂

去る6月23日(火)の慰霊の日に、田名会長、稲田副会長、医師会事務局の方々と沖縄県殉職者医療人之碑、ひめゆりの塔、沖縄県陸軍病院之塔を参拝させていただきました。沖縄は「慰霊の日」前後に梅雨明けが訪れると言われますが、まさに梅雨明けのような青空が広がり強い日差しが降り注ぐ天気でした。

私ごとですが、母が沖縄県立第一高等女学校(一高女)の卒業生で、沖縄戦末期に一高女の後輩であるひめゆり学徒隊と引率されていた恩師の先生方と南部撤退時、行動を共にしていた時期があったそうです。そのため母が元気な間は一高女の卒業生として、毎年ひめゆりの塔で行われる慰霊祭に参加しており、私も何度か手を合わせに行ったことがあります。母が行けなくなっからは大分足が遠のいていたので、今回約20年ぶりに慰霊の日に南部戦跡に行きました。

最初に沖縄県殉職者医療人之碑を沖縄県医師会、薬剤師会の代表者で参拝しました(歯科医師会、看護協会を加えた4団体からの献花が

お供えされていました)。戦時中、本土に疎開せず沖縄戦で軍に協力し、軍人だけではなく住民の衛生、保健、病気やけがの治療を行いながら各地で戦死された医療従事者50余柱が合祀されています。ひめゆりの塔が立っているガマは沖縄県陸軍病院の第三外科が入っていたので伊原第三外科壕と呼ばれており皆さんよくご存知の場所です。ひめゆりの塔の前では少年少女たちによる祈りを捧げる合唱が披露されていました。若い人たちにも平和を祈る気持ちが受け継がれていることを実感しました。殉職者医療人之碑はひめゆりの塔に隣接してありますが、恥ずかしながら私はその存在を今回訪れるまで知りませんでした。参拝後、再度ひめゆりの塔に手を合わせ沖縄県陸軍病院之塔に向かいました。そこは初めて訪れる場所でした。塔の手前にサキアブと呼ばれるガマがありそこは沖縄戦末期に日本軍が南部に撤退してきた際に陸軍病院として使われたため陸軍病院本部壕とも呼ばれています。沖縄県陸軍病院の塔にはそこで亡くなられた43名が祀られています。塔のそばには戦



慰霊の日 令和8年6月23日(火) 沖縄戦殉職者医療人之碑

時中軍医であった長田紀春先生が詠んだ歌二首（「春くると ひたすら待ちし 若草の萌え立ついのち 君は捧げぬ」、「水汲みに 行きし看護婦 死ににけり 患者の水筒 四つ持ちしまま」）を記した歌碑（2005 年建立）があります。実体験を通してお詠みになったであろうその歌は、つらく悲しい情景が目に見え、読む人の胸を打つ内容だと思いました。その塔にもゆか

りのある方や平和学習の団体の方々がいらしていました。移動中も多くの方が徒歩や車で南部戦跡を回っている姿を目にしました。今回、参加させていただき、改めて沖縄県民として、また現在医療に携わるものとして、戦後築き上げてきた平和のありがたさに感謝し、これからの時代が新しい戦前にならないことを願うばかりでした。



沖縄陸軍病院之塔

